



## 第40回電気通信普及財団賞 受賞論文 ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同、敬称略>

※受賞者の所属は論文・著作発行時のものです。

### 入賞（賞金 50 万円）

「Introducing an “invisible enemy”: A case study of knowledge construction regarding microplastics in Japanese Wikipedia」

(New Media & Society, 2023 年 1 月)

FU Mengyuan 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 博士課程 3 年生

楊 鯤昊 中央学院大学法学部 講師

藤垣 裕子 東京大学大学院総合文化研究科 教授

マイクロプラスチックという環境問題を取り上げ、Wikipedia の編集履歴を分析し、この問題に対する社会的認識をとらえていこうとするアプローチは新規性に富んだ実証分析である。Wikipedia の記事の信頼性は以前よりかなり高まってきており、信頼性の高い百科事典項目としてふさわしい編集経緯を経ているかは、重要な研究対象である。今後、AI 生成の Wikipedia という点も考えられ、また他の記事での応用可能性についての議論など、さらなる研究の深化が期待される論文である。

### 入賞（賞金 50 万円）

「Ambidextrous Product Development Management: Exploration and Exploitation in Iterative Innovation」

(PDMA & JPIM Research Forum 2023, 2023 年 9 月)

山本 将也 筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群

経営学学位プログラム 博士後期課程 2 年

立本 博文 筑波大学ビジネスサイエンス系 教授

Iterative Innovation を探索型と活用型に分類した上で、大手 IT 企業の Web アプリ開発のデータを用いて実証的に分析した論文である。データの収集・整理、作業仮説の立て方とその統計分析はよくまとまっており、分析結果の解釈も説得的である。データの基本統計量も含めたもう少し詳しい説明および結果の経営戦略へのインプリケーションが加わると、本研究の意義がより高まると思われる。

### 奨励賞（賞金 30 万円）

「身体を保護法益とする抽象的危険犯としての誹謗中傷等罪に関する試案」

(未発表の論文)

黒川 真輝 慶應義塾大学法学部法律学科 4 年

インターネット上の誹謗中傷対策の一環として刑法の侮辱罪（231 条）の法定刑が引き上げられたが、対策としてなお不十分であるとの問題意識から、外国の議論も参考として「精神という意味における身体」を刑法の保護法益として設定し、抽象的危険犯として構成すべきことを提案しているところに、本作品の独自性がある。今後、法曹としての経験を積みながら、刑事立法による誹謗中傷対策についての思考を深めることを期待する。



奨励賞（賞金 30 万円）

「携帯電話とインターネットの普及に関する実証研究

～イノベーション普及モデルを用いた加速期・成熟期の特定と普及要因の検証～」

（未発表の論文）

江口 修平 九州大学大学院経済学府経済システム専攻 修士課程 1 年

本論文は、外生的に与えられた制度が携帯電話やインターネットの普及に及ぼす影響を分析している。問題設定や分析アプローチについては多くの先行研究があり新規性や、推定結果について目新しさはないかもしれないが、著者は先行研究を踏まえた上で最新のデータを丹念に収集し、実証分析を行っている。推定結果の解釈など説得力のある論文で、著者の緻密な努力の跡が見て取れる論文で高く評価する。今後の一層の研究成果を期待したい。